

2022年5月20日

2022年3月期  
連結決算説明資料

双葉電子工業株式会社

1. 本資料に記載されている業績予想については、当社が現時点で入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいた見通しであり、為替などの潜在的なリスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは異なる結果となり得る事をご承知おき下さい。
2. 本資料に記載されている金額は、百万円は単位未満を切り捨てし、億円は単位未満を四捨五入して表示しています。
3. 本資料に記載されている当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を指しています。

● 当社製品セグメントの説明	P1
● 当期の施策および新製品の実績	P2～3
● 業績ダイジェスト	P4
● 市場地域別売上高	P5～6
● セグメント別業績状況	P7～8
● 連結貸借対照表の状況	P9
● 翌期の経営施策	P10～11
● 業績見通し	P12
● SDGs・サステナビリティに関する取り組み	P13



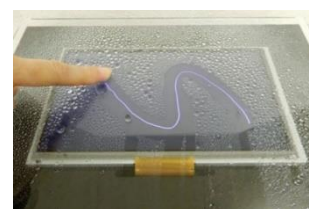
# 当期の施策および新製品の実績/電子デバイス関連

生産拠点の統合による輸送コストや固定費の削減に取り組むとともに、いち早く新製品を立ち上げ収益性を改善すべく、以下に取り組んだ

## ● タッチセンサー

- ▶ 独自開発ICの使用により耐環境タッチセンサーなどの高付加価値製品を開発
- ▶ 顧客製品のデザイン性を向上できる製品として静電容量式の3D形状タッチセンサーや新たな印刷技術を取り入れたマルチデザインプレートの開発を進行し市場を開拓中

耐環境タッチセンサー



## ● 有機ELディスプレイ

- ▶ 高輝度・高精細な小型民生用カラー製品を開発し標準品ラインアップを拡充
- ▶ 事業化プロジェクトを推進し、非表示用途の製品を開発、量産をスタート

高輝度・高精細  
カラー有機ELディスプレイ

## ● システムソリューション

- ▶ オールインワンモータモジュール「Roboservo」の量産をスタート  
協働ロボットやAGV、FA機器、車載用途で大学・企業に販売実施
- ▶ 各種センサーと無線技術を融合させたIoT製品の市場開拓に向けた提案活動を推進

Roboservo

## ● 産業用ドローンシステム

- ▶ LTE通信モジュール搭載の物資搬送用ドローンを開発し、実証実験を実施
- ▶ クオリティソフト株式会社とドローン運行管理システムの開発を開始



物資搬送用ドローン

## ● ホビーラジコン機器

- ▶ カー用フラッグシップモデル「T10PX」の販売を開始
- ▶ 市場の活性化とシェア拡大に向け、SNSやYoutubeを活用した情報発信を継続



# 当期の施策および新製品の実績/生産器材

デジタルコンテンツ(ランディングページ、ウェビナーなど)をさらに充実し、営業効率改善や機械稼働率の平準化を実現するDX化を推進しながら、以下に取り組んだ

## ● 金型内計測システム MOLD MARSHALLING SYSTEM

- ▶ 国内および中国にて専用のランディングページを開設し、活用メソッドや導入事例の展開を推進
- ▶ Futaba Sensing Webinar等の実施により活用方法を提案し、ユーザの導入効果最大化に貢献

## ● 工作機械IoTモニタリングシステム

- ▶ 当社工場で同システムを活用し稼働率向上を実現させるなど、DX化事例の充実により導入ユーザ数を拡大

## ● CFRP製切削加工用厚板プレート「フェルカーボ」

- ▶ 産業用ロボット等への活用事例や軽量化による労働環境改善事例の展開、および定量的なエネルギー削減効果の提示により、様々な用途へ採用を拡大
- ▶ リサイクル炭素繊維を使用することでSDGsに貢献

## ● ソフトウェア・サービス事業

- ▶ 生産器材ECサイト「フタバオーダーサイト」と株式会社カブクが展開する簡易設計・調達サービス「Plate Builder(プレートビルダー)」との連携を開始し、調達業務のさらなる合理化に貢献
- ▶ 株式会社カブクが展開するクラウド加工原価見積りサービス「Cost PRO(コストプロ)」では、材質・対応形状拡大等のアップデートを推進

国内向けランディングページ



「フェルカーボ」製品紹介 (SDGs)

Futaba

フェルカーボの炭素繊維は  
**100%リユース材。**  
だから、環境に優しい。

リユース材...リユースはいわゆる3R(Reduce:リデュース、Reuse:リユース、Recycle:リサイクル)のひとつであるリユースを指し、「使える物は繰り返し使う」こと。日常生活では、詰め替え用の製品を選ぶことや、いらなくなったものを譲りあうことがリユースにあたります。フェルカーボで使っている炭素繊維も、リユース材です。



クラウド加工原価見積りサービス  
「Cost PRO(コストプロ)」





- 新型コロナウイルス感染症の影響(以下、新型コロナ影響)からの回復により増収
- 半導体需給逼迫の影響は、売上高で△27億円の減収、営業利益で△13億円の減益

(単位：百万円)	FY2020 (実績)	FY2021 (実績)	増減額 (前期比較)
売上高	48,826	<b>53,450</b>	4,624
売上総利益	7,691	<b>8,947</b>	1,256
利益率(%)	(15.8)	<b>(16.7)</b>	
営業利益	△3,517	△ <b>1,863</b>	1,653
利益率(%)	(△7.2)	<b>(△3.5)</b>	
(為替差損益)	(△47)	<b>(530)</b>	(578)
経常利益	△2,513	△ <b>654</b>	1,858
利益率(%)	(△5.1)	<b>(△1.2)</b>	
当期純利益	△5,430	△ <b>2,668</b>	2,761
利益率(%)	(△11.1)	<b>(△5.0)</b>	
平均為替レート	106円/\$	<b>113円/\$</b>	7円/\$
期末日為替レート	111円/\$	<b>122円/\$</b>	11円/\$

## 当期の特徴 (前期比較)

**売上高(増収)**

新型コロナ影響からの需要回復により、生産器材や複合モジュール、産業用ラジコン機器などが順調に推移したことにより増収

**営業利益(赤字縮小)**

原材料価格の高騰による影響を受けたものの、売上高が回復したことに加え、固定費の統制を強化したことにより、赤字縮小

**経常利益(赤字縮小)**

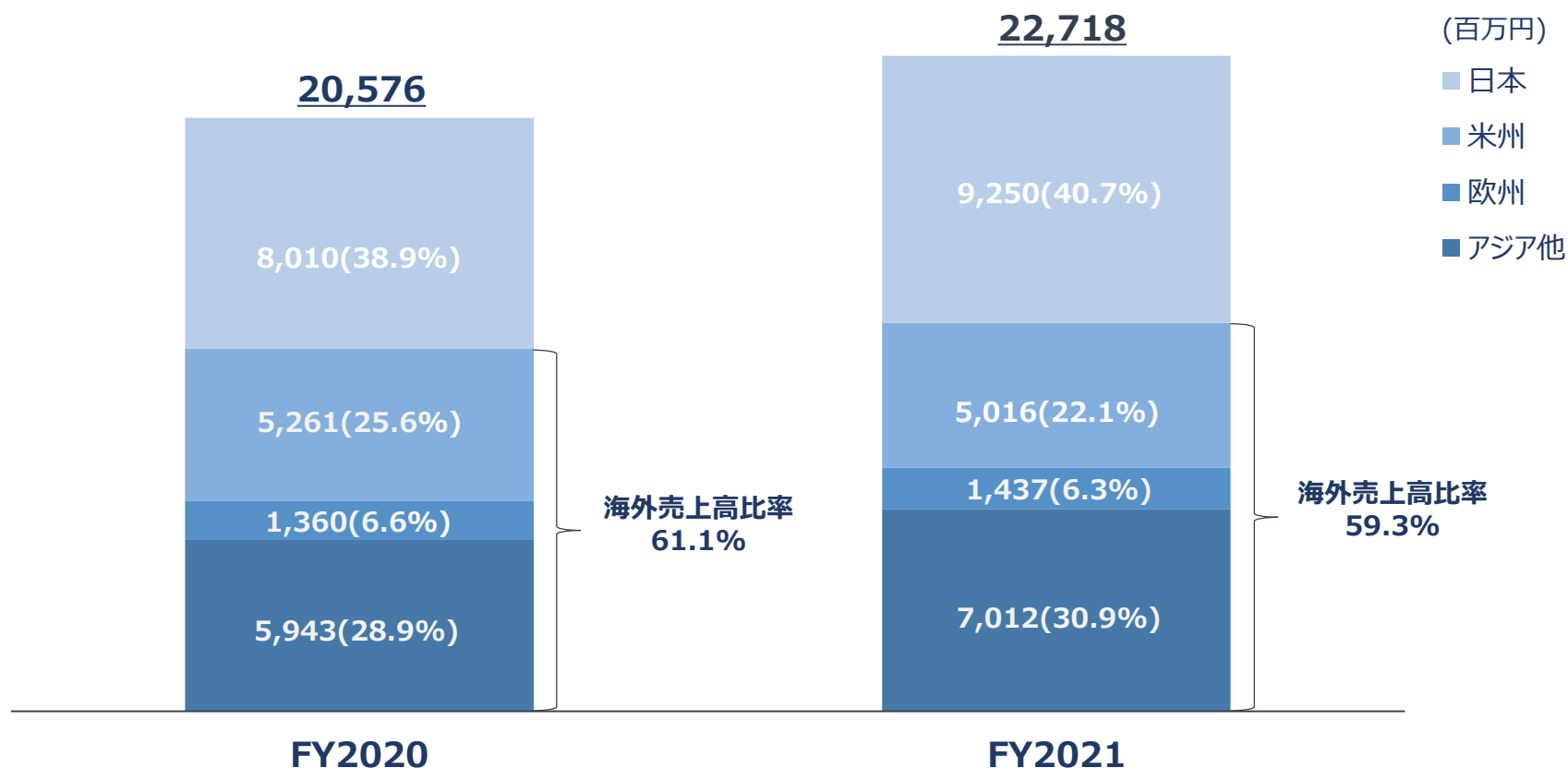
営業損失の縮小に加え、為替差益に転じたことで赤字縮小

**当期純利益(赤字縮小)**

固定資産売却益や投資有価証券売却益の計上、および特別損失の減少により赤字縮小

# 市場地域別売上高/電子デバイス関連

- ▶ 日本 : 複合モジュールや産業用ラジコン機器において、新型コロナ影響からの受注回復により増加
- ▶ 米州・欧州 : タッチセンサーの減収があったものの、複合モジュールの受注回復により、横ばいで推移
- ▶ アジア他 : タッチセンサーにおける車載向けの新品種量産開始や新型コロナ影響からの受注回復により増加
- 海外売上高比率 : 日本向け売上高が回復したことにより、△1.8ポイント減少

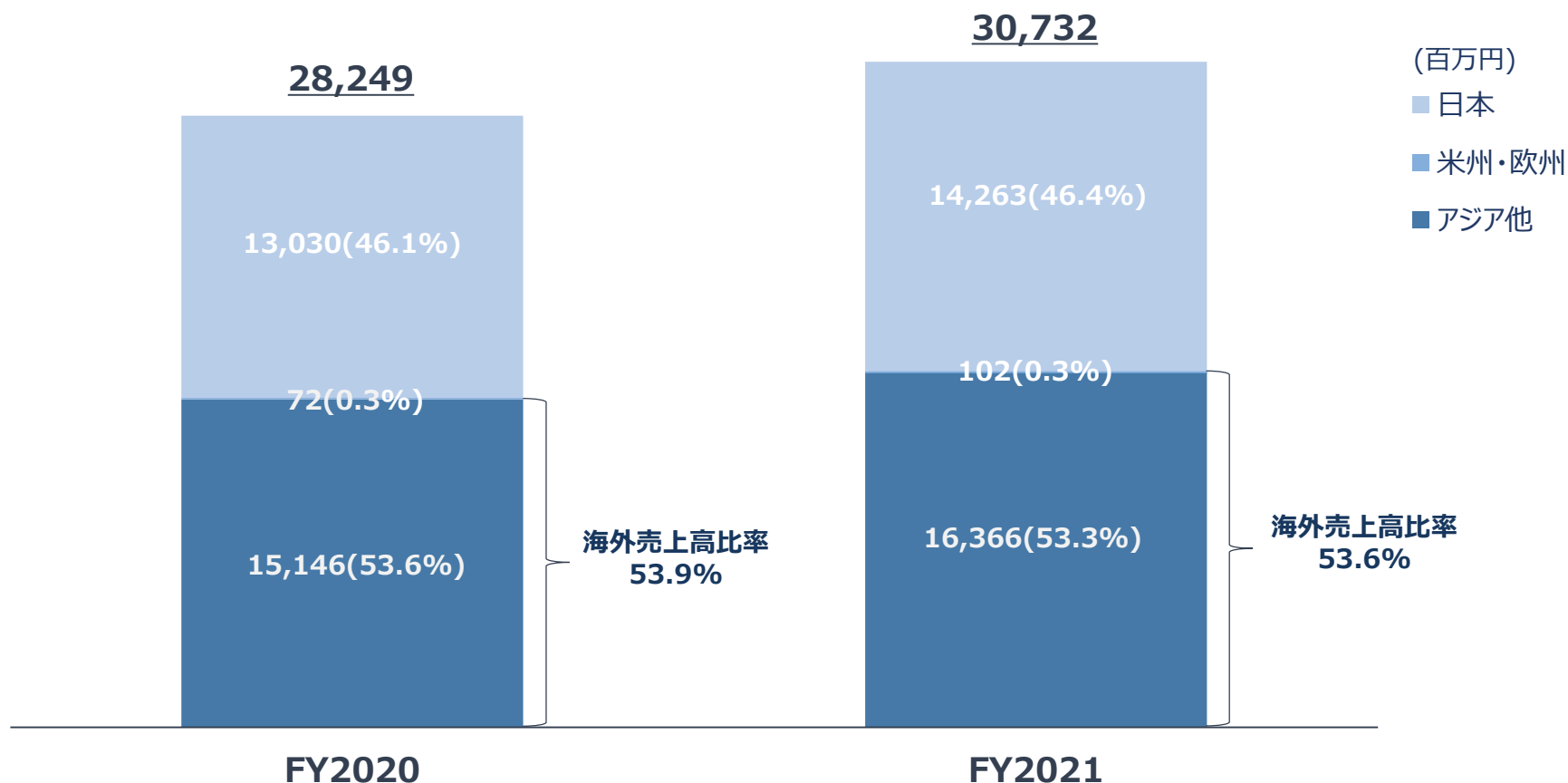


(注) 1.()内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。  
 2.本ページ記載の売上高は内部取引を含んでいません。



# 市場地域別売上高/生産器材

- ▶ 日本 : 主として、設備投資関連の市場が回復したことにより増加
- ▶ アジア他 : 韓国市場において携帯電話向けや医療用途が好調に推移したことに加え、為替が円安となり増加
- 海外売上高比率 : 日本向け売上高が回復したことにより、△0.3ポイント減少



(注) 1.(.)内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。  
 2.本ページ記載の売上高は内部取引を含んでいません。

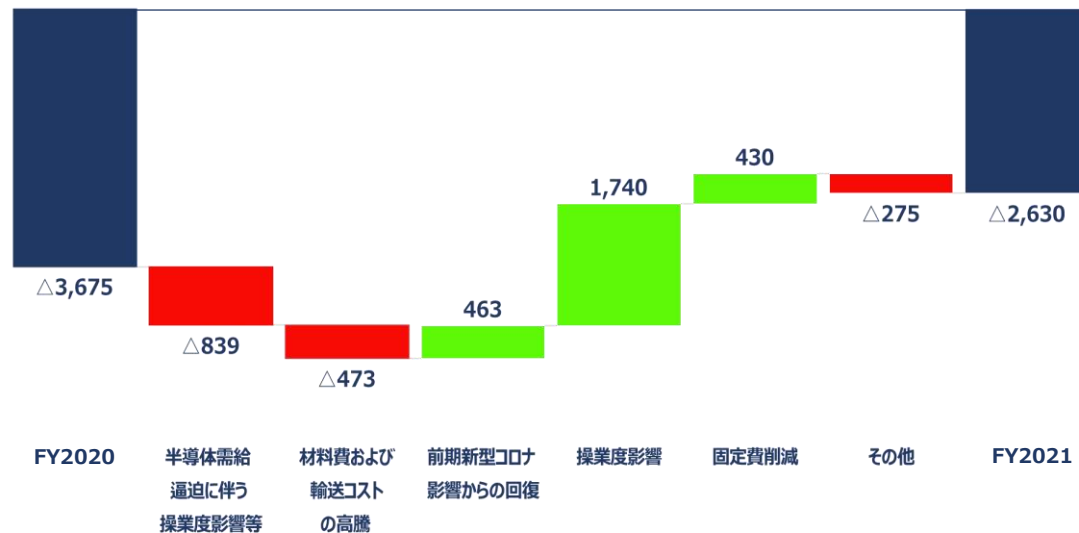
# セグメント別業績状況/電子デバイス関連

## 営業利益差異分析

(百万円)

(百万円)	FY2020	FY2021	増減額	増減率
売上高	20,585	22,731	2,146	10.4%
営業利益	△3,675	△2,630	1,045	-

(注) 売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。



(注) 操業度影響には、売上高の増加だけでなく、工場の稼働率改善に伴う影響も含んでいます。

### ● 売上高

#### ▶ タッチセンサー(減収)

車載用途の新モデル量産開始があったものの、顧客の半導体調達難による生産調整の影響により、減収

#### ▶ 有機ELディスプレイ(横ばい)

国内の車載用途や海外での事務機用途および映像用途が順調に推移したものの、海外での車載用途やWi-Fiルータ向けにおいて顧客の半導体調達難による生産調整の影響等により、横ばいで推移

#### ▶ 複合モジュール(増収)

事務機用途および計測器用途が好調に推移したことに加え、EMSの受注も回復したことにより、増収

#### ▶ 産業用ラジコン機器(増収)

トラッククレーン向けやFA向けが順調に推移したことにより、増収

#### ▶ ホビー用ラジコン機器(増収)

空用およびカー用プロポの新製品販売や北米のインターネット販売が引き続き好調であったことにより、増収

### ● 営業利益

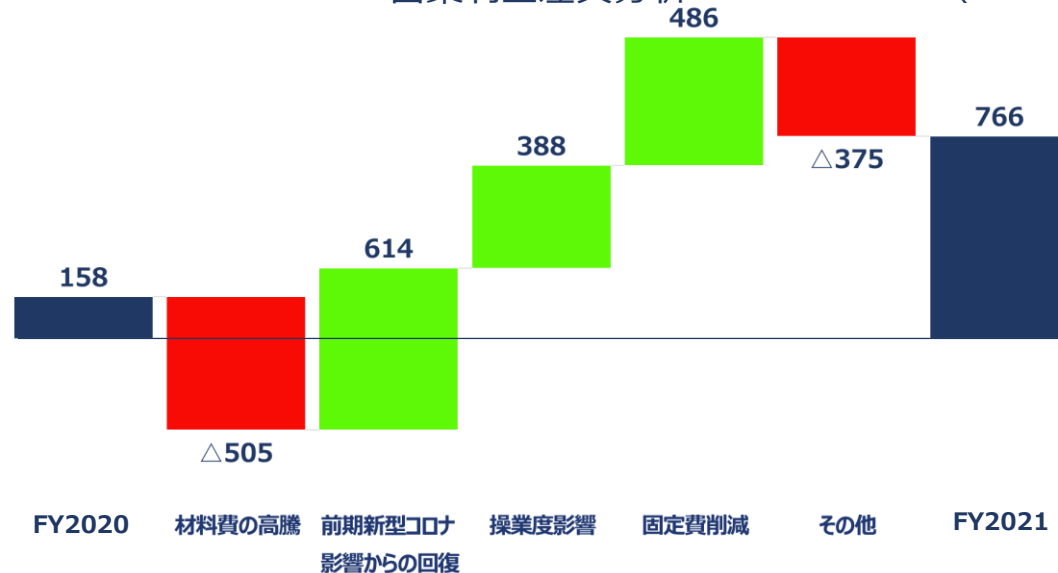
半導体需給逼迫や材料費および輸送コスト高騰の影響を受けたものの、増収に伴う操業度の良化により、赤字幅が縮小

# セグメント別業績状況/生産器材

(百万円)	FY2020	FY2021	増減額	増減率
売上高	28,263	<b>30,758</b>	2,494	8.8%
営業利益	158	<b>766</b>	608	384.9%

(注) 売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。

## 営業利益差異分析 (百万円)



(注) 操業度影響には、売上高の増加だけでなく、工場の稼働率改善に伴う影響も含んでいます。

### ● 売上高

#### ▶ 国内(増収)

自動車関連において、半導体不足などの減産の影響を受けたものの、設備投資関連を含め市場が回復してきたことから、モールド・プレス金型用器材およびプレート製品が好調に推移

また、成形・生産合理化機器も堅調であったことから、増収

#### ▶ 海外(増収)

主力の韓国において、景気の持ち直しによる需要の増加に加え、携帯電話向けおよび医療用途向けが順調に推移し、為替も円安に推移した影響を受けたことから、増収

### ● 営業利益

原材料価格の高騰による影響を受けたものの、増収に伴う操業度の良化や固定費の削減により、増益

# 連結貸借対照表の状況

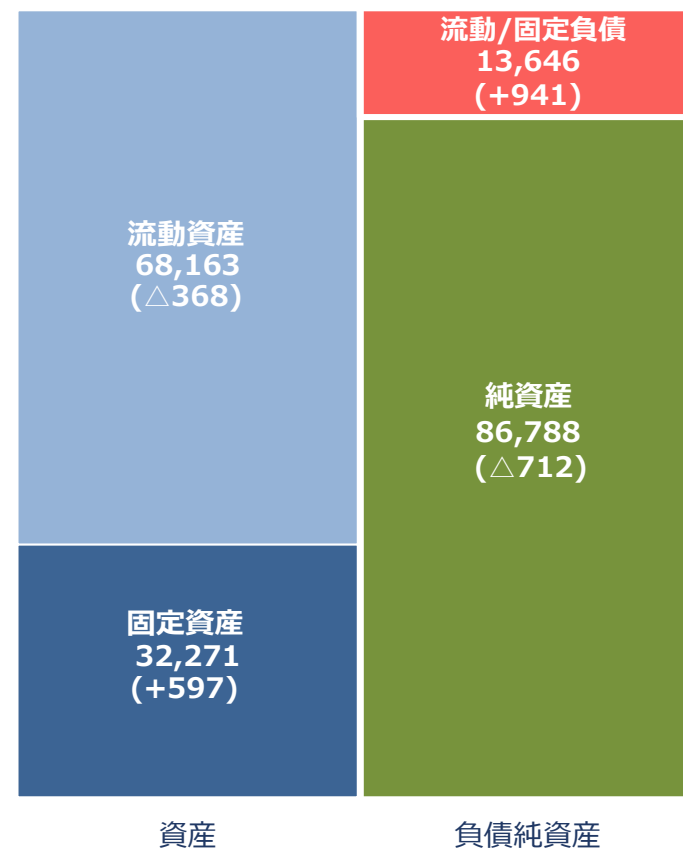
## 【主な増減要因】

- 現預金(原材料の増加、設備投資による支出)
- 棚卸資産(原材料の先行手配、製品在庫の増加)
- 流動負債(買入債務の増加)
- 自己資本(当期純損失の計上)

- 自己資本比率 75.3%(前期末76.7%)
- 1株当たり純資産：1,782.55円  
(前期末：1,812.50円)

(単位：百万円)	FY2020	FY2021	増減額 (前期末比較)
現預金	40,829	<b>33,626</b>	△7,202
売上債権	14,902	<b>15,466</b>	563
棚卸資産	11,787	<b>17,496</b>	5,709
その他流動資産	1,013	<b>1,574</b>	560
固定資産	31,673	<b>32,271</b>	597
資産合計	100,206	<b>100,435</b>	228
流動負債	9,150	<b>10,190</b>	1,040
固定負債	3,555	<b>3,455</b>	△99
自己資本	76,882	<b>75,611</b>	△1,271
非支配株主持分	10,618	<b>11,177</b>	558
負債純資産合計	100,206	<b>100,435</b>	228

**FY2021** (百万円)



(注) ()内記載の数字は、増減額(前期末比較)を表しています。

## ■ 全社共通

- ▶ 世界的な部材費・エネルギー費・運送費などの高騰に対する、一層の生産性向上や固定費削減の取り組みおよび適正売価政策の実行
- ▶ 部材調達の長期化に対応し、部品の共通化および顧客との情報共有の徹底

## ■ 電子デバイス関連

### ● タッチセンサー

- ▶ 生産の台湾工場への集約に加え、事業の主体を日本本社から台湾工場に移管し、効率的な運営を実現
- ▶ マルチデザインプレート、耐環境タッチセンサー、3D形状タッチセンサーなどの高付加価値製品の市場開拓

「マルチデザインプレート」



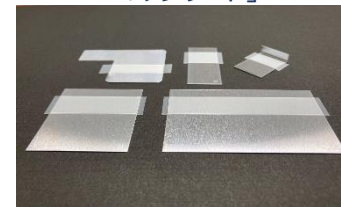
### ● 有機ELディスプレイ

- ▶ 生産委託・外注の最大活用による収益性の抜本的改善

### ● タブリード

- ▶ モビリティのEV化に伴い、リチウムイオンキャパシタ・リチウムイオン電池用「タブリード」の市場開拓および高機能化を推進

「タブリード」



### ● システムソリューション

- ▶ ドローン関連製品は、開発を促進するとともに、ハード製品を核に機体メンテナンスやスクールなどのサービス事業への領域拡大と市場開拓
- ▶ 各種センサーと無線技術を融合させた製品の開発および市場開拓

# 翌期の経営施策

## ● ホビー用ラジコン機器

- ▶ 継続的な空用・カー用の新商品投入およびSNS等を活用した情報の発信・収集による市場の活性化とシェア拡大
- ▶ UAV/ドローンの航続距離延長を目的としたエンジン、スターター、発電機が一体となったシステム「レンジエクステンダー」を産業用途へ拡販

「レンジエクステンダー」

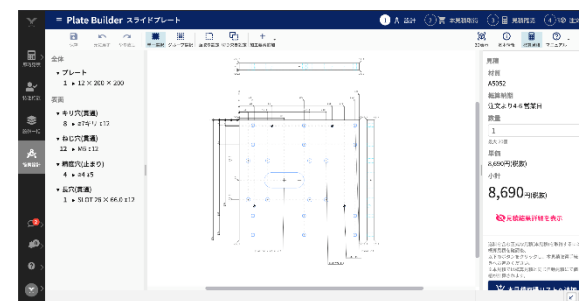


## ■ 生産器材

### ● 金型用器材・プレート製品

- ▶ 多様化する市場要求に合わせ、合理的な自動化生産体制を構築し、納期や品質で顧客満足度の向上を推進
- ▶ BCPの観点から部品供給拠点の分散・安定化や、材料費変動に即した適正価格での売価政策の推進
- ▶ WEB受注システムやオンデマンド受託製造サービスによる顧客への合理化支援サービスを強化
- ▶ 省エネ・加工時間短縮に寄与するCFRP製切削加工用厚板プレート「フェルカーボ」の用途開拓と拡販

合理化支援サービス「Plate Builder」



### ● 成形・生産合理化機器

- ▶ 成形合理化商品(金型内計測システム、ホットランナシステム)の海外販売強化と売上構成比の拡大
- ▶ 新たな販売・マーケティングツールであるランディングページの充実やウェビナーのさらなる活用および顧客へのSDGs貢献を提案し、IoTモニタリングシステム等を拡販

「工作機械IoTモニタリングシステム」

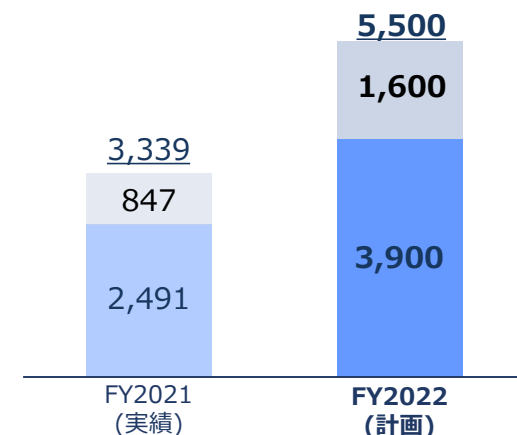


# 業績見通し

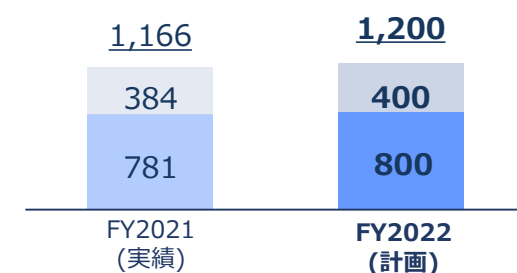
■ 前項で掲げた施策の実践により、連結売上高610億円、営業利益2億円の黒字化を見込む

(単位：百万円)	FY2021 (実績)	FY2022 (計画)	増減額 (前期比較)
売上高	53,450	<b>61,000</b>	7,549
連結合計 営業利益	△1,863	<b>200</b>	2,063
利益率(%)	(△3.5)	<b>(0.3)</b>	
電子デバイス 関 連			
売上高	22,731	<b>28,000</b>	5,268
営業利益	△2,630	<b>△700</b>	1,930
利益率(%)	(△11.6)	<b>(△2.5)</b>	
生産器材			
売上高	30,758	<b>33,000</b>	2,241
営業利益	766	<b>900</b>	133
利益率(%)	(2.5)	<b>(2.7)</b>	
(為替差損益)	530	<b>147</b>	△383
経 常 利 益	△654	<b>800</b>	1,454
利益率(%)	(△1.2)	<b>(1.3)</b>	
当 期 純 利 益	△2,668	<b>△2,900</b>	△231
利益率(%)	(△5.0)	<b>(△4.8)</b>	
平均為替レート	113円/\$	<b>125円/\$</b>	12円/\$

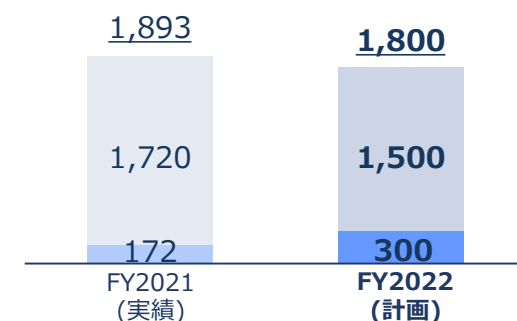
設備投資 (百万円)



減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



■ 電子デバイス関連 ■ 生産器材

(注) 各セグメントの売上高および営業利益は、内部取引を含んでいます。



# SDGs・サステナビリティに関する取り組み

- 当社グループでは、社会的課題に対してマテリアリティ（重要課題）を特定し、リスクや機会を踏まえ、具体的な取り組みと2030年度の目標（KPI）を定めました。これらの取り組みを着実に実行することで持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

	マテリアリティ項目	取り組み	関連するSDGs	双葉グループ 2030年度目標(KPI)		マテリアリティ項目	取り組み	関連するSDGs	双葉グループ 2030年度目標(KPI)
環境(E)	・環境配慮製品	・環境に配慮した製品の開発 ・環境に配慮した梱包の推進		CO <sub>2</sub> 排出量目標 	サステナビリティ重点課題	・人財育成	・教育計画の実行推進 ・通信教育制度の活用推進 ・FGC研修制度の活用推進		女性比率目標  新規雇用 <b>38%</b> 正社員 <b>26%</b> 管理職 <b>20%</b>
	・気候変動への対応	・CO <sub>2</sub> 排出量の削減 省エネ、再生可能エネルギーへの 転換促進		2013年度比 <b>46%削減</b>		・ダイバーシティの実現	・女性活躍推進 ・外国籍社員雇用推進 ・障がい者雇用推進 ・シニア社員の活躍推進 (シニア契約社員制度と子会社での再雇用)		
	・資源の有効活用	・廃棄物のリサイクル率向上 (取り組みを関係会社へ展開)		リサイクル率目標 		・従業員の健康と安全の確保	・メンタルヘルス対策 (アンケート調査、評価、 アドバイス等) ・電話相談室の活用推進		
	・生物多様性の保全	・工場内に自生している絶滅危惧 植物の保護 (大型植物の駆除、水質改善等)		<b>99%以上</b>		・人権への取り組み	・社員倫理行動規範ガイドブックに よる周知		
	・経営戦略や経営計画の 策定/公表	・FIP2023の策定/公表							
ガバナンス(G)	・企業倫理の徹底	・内部通報制度(ホットライン)の活 用推進 ・社員倫理行動規範ガイドブックに よる周知							
	・コーポレート・ガバナンス の強化	・内部統制システムの整備/運用							
	・コンプライアンスの徹底	・コンプライアンスリスク管理委員 会による体制の構築							
	・取締役会の実効性確保	・実効性評価の実態と課題への対応							

## SDGs・環境方針

### ■ 基本方針

当社は、商品・サービスの提供を通じて企業価値を高めつつ、自然の営みを尊重し、次世代へ「負の遺産」を残さないよう、環境負荷の低減に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

- 当社は、『TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）』への賛同を予定しており、当社HP上での開示の準備を進めております。